

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や手術後の検体、通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（手術検体、血液・細胞・排泄物など）を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	患者由来組織とオルガノイドを用いた消化管がん簇出の病態解明
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 消化管・腫瘍外科学講座 准教授 古賀繁宏
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2030 年 3 月 31 日
対象となる方	2026 年 1 月から 2030 年 3 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち消化管領域の疾患にて外科的切除を受ける患者さん。
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等 (利用する試料) 手術検体、及び通常の診療で使用した後に残った試料（血液・細胞・排泄物など）
研究の概要 (目的・方法)	本研究は、消化器がんが存在する、転移に関わると考えられている「浸潤先導細胞」という特殊な細胞の特徴を明らかにすることを目的としています。これにより、がんの広がりや再発を抑える新しい治療法の開発につなげたいと考えています。対象は、消化管の病気で手術を受けられた 20 歳以上の患者さんです。手術で得られた病変部や非病変部の一部を用いて、空間トランスクリプトーム解析を行い、浸潤先導細胞の遺伝子発現の特徴を調べます。さらに、オルガノイドや線維芽細胞の培養を行い、蛍光イメージングという方法を用いて、特定の遺伝子が浸潤先導細胞の形成にどのように関わるかを観察します。

個人情報の保護 について	<p>この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。提供先が本学以外の大学・研究機関や企業の場合には、個人を特定できる情報を含まない形で提供します。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	<p>愛媛大学医学部附属病院消化管・腫瘍外科学 古賀 繁宏</p> <p>791-0295 愛媛県東温市志津川 454</p> <p>Tel: 089-960-5975</p>